

第1回地域包括ケアシステム推進プラン検討委員会開催結果

- 日 時 平成25年7月9日(火) 13:34~15:40
- 会 場 京都府医師会館 601会議室
- 出席者 別紙のとおり
- 主な意見

地域包括ケアの基本施策

(医療)

- 病院には、幅広い職種があり、「医療・介護・福祉の総合商社」としての機能がある。

(介護)

- 24時間住み慣れた地域を支える介護サービスが脆弱。
- 介護サービス事業所間で、輪番制、当番制により24時間対応する方法もある。

(予防)

- 「予防の充実」については、非常に重要。また、評価の視点も盛り込めると良い。

(見守り・生活支援)

- 自治会等の様々な地域・住民団体や民間事業者も地域包括ケアシステムを支える主体として巻き込んでいく取組が必要。
- 地域力が疲弊した地域では、外からの力で地域力を高めていくことが必要。
- 「地域サロン」、「地域密着型サービス拠点」のようなものが必要となるので、介護サービスの拠点としてだけでなく、地域の方が出会い、支え合う拠点とする制度的な支援が必要。

(すまい)

- 公営住宅の一部を高齢者や支援が必要な人に利用してもらえるような住宅施策が必要。
- 様々なサービスを組み合わせた新しい住まいの形として、民間が参入しやすいサービス付き高齢者住宅(以下「サ高住」という。)は大きな資源。
- サ高住、グループホーム、特養などの、安心な住まいが地域に少ない。

(人材・ネットワーク)

- 24時間の介護サービスを担うためには、人材を確保、定着させる給与面を含めた施策が重要。

認知症総合対策

(認知症に対する正しい理解の促進)

- 理解者を地域の中で増やしていく取組を継続することにより成果が表れる。
- 認知症サポーターの養成については、病院職員も対象にすべき。
- 認知症になる可能性は全ての人にあり、「認知症となる危険の可能性をみんなで共有す

る」ことが、認知症や高齢者の対応では大事なポイント。

(早期発見・早期対応)

- 家族への啓蒙が必要
- 「まちかど相談薬局」が、認知症の兆しに気づけるよう、認知症に対する研修の機会を設けてほしい。
- 家族や地域住民の視点から認知症を早期に発見するための指標やガイドラインの作成が必要。

(初期認知症対応型カフェ)

- 初期認知症だと思われる方にカフェに来てもらい、後から自宅訪問でつながりを持つことを繰り返している。
- 行政主体だけではなく、主体的な住民の取組を支援していく手法も必要。
- サポーターがサービスする場ではなく、本人や周りの人たちも一緒に仲間として集い、楽しむ「居場所」をつくることが重要。
- 先進的な事例を市町村で共有できれば、「地域で安心して暮らしていける」基盤ができる。
- 普通の方がそこに集い、長くその人を見ていくうちに異変に気付く仕組みが有効。

(医療)

- 介護療養病床は、合併症がある認知症の方を診る場所として適当。
- 認知症のターミナルケアについて、認知症に慣れた施設に入所することは、本人にも家族にとっても幸せではないか。
- かかりつけ医は、医学的な診断はできるが、日常生活への影響やどれだけ困っておられるかは把握が難しいので、地域包括支援センターやケアマネジャー、地域、家族と連携し、情報提供してもらうことが不可欠。
- 医師がいないなど、資源が脆弱な地域で何ができるかのモデルも示してもらいたい。

(その他)

- 市町村においては、認知症に特化した家族支援事業を行うべきであり、京都府にも支援願いたい。
- 認知症による犯罪は「病気」によるものであり、「認知症は病気だ」ということを十分に周知していく必要がある。
- 今後は、認知症の方の「車の運転」（自動車運転免許の返納等）の問題も懸念される。

プラン全般

- 様々な施策を一体化させるために何が必要かという視点や、本人、家族、住民が、情報により意識を高め、自らできることを考えてもらうという視点が必要。
- 生活全体を見ながら、生活者の主体性をどのように大切にするかという方向も大事。

地域包括ケアシステム推進プラン検討準備会(第1回) 出席者名簿

区分	氏名	所属等	出欠	
学識経験者等	岡本 民夫	同志社大学 名誉教授	○	
	山田 尋志	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ 代表	○	
	宮本 隆司	社会福祉法人京都府社会福祉協議会 常務理事	○	
各分野の現場実務者	拠点病院	久野 成人	一般社団法人京都私立病院協会 副会長	○
		清水 紘	京都療養病床協会 会長	○
	在宅医療	北川 靖	一般社団法人京都府医師会 副会長	○
		松本 尚子	公益社団法人京都府看護協会 専務理事	○
		佐藤 雅之	一般社団法人京都府歯科医師会 常務理事	○
		宇野 進	一般社団法人京都府薬剤師会 副会長	○
	介護サービス	荻野 修一	一般社団法人京都府老人福祉施設協議会 会長	○
		吉良 厚子	社団法人京都府介護支援専門員会 事務局長	○
	見守り インフォーマルサービス	三井 健史	特定非営利活動法人丹後福祉応援団 理事長	○
	サービス利用者	荒牧 敦子	公益社団法人認知症の人と家族の会 京都府支部代表	○
山下 宣和		社会福祉法人綾部市社会福祉協議会 事務局次長	○	
市町村	谷利 康樹	京都市 保健福祉局長寿社会部長寿福祉課長	○	
	山口 孝幸	宮津市 健康福祉室長	○	
	花木 秀章	井手町 高齢福祉課長	○	